会　　議　　記　　録				
会議の名称	公共交通対策特別委員会		会議場所　全員協議会室	
			担当職員　　加藤　太郎	
日　　時	令和５年８月２４日（木曜日）		開　議　午後３時００分	
			閉　議　午後４時２０分	
出席委員	◎齊藤　〇山本　大西　法貴　大石　土岐　松山			
執行機関 出 席 者	【まちづくり推進部】信部部長、清水事業担当部長 ［桂川・道路交通課］石田課長、門下広域事業・交通担当課長、服部主任			
事 務 局 出 席 者	井上事務局長、加藤副課長兼議事調査係長			
傍　聴　可	市民１名	報道関係者０名	議員２名（梅本、木村）	

会　議　の　概　要

１５：００

１　開議

［齊藤委員長　開議］

［事務局副課長兼議事調査係長　日程説明］

［まちづくり推進部　入室］

１５：０２

２　案件

（１）行政報告（まちづくり推進部）

＜まちづくり推進部長＞

御承知のとおり今年度は本市地域公共交通のマスタープランである亀岡市地域公共交通計画（計画期間：令和６～１０年度の５か年）を策定する年度である。本日は計画策定に関連して今年度の第１回と第２回の亀岡市地域公共交通会議の内容や進捗状況、そして、地域主体型交通の取組状況について報告させていただくので、よろしくお願いする。

・令和５年度亀岡市地域公共交通会議開催状況について

［桂川・道路交通課広域事業・交通担当課長　説明］

［質疑］

＜松山委員＞

新計画の策定に向けて地域公共交通会議を開催されている中で、各委員からいろいろな立場で意見があったと思うが、どのような内容であったのか。

＜桂川・道路交通課広域事業・交通担当課長＞

第２回地域公共交通会議の協議内容は後日ホームページに掲載する予定であるが、主な内容を挙げさせていただく。まず近畿運輸局京都運輸支局から、計画の構成については法的に有効な内容であることを確認いただいた。利用者代表の方からは、ふるさとバスに導入したフリー乗降制度が大変便利なものであること、一方でフリ

ー乗降区間で手を挙げたのにバスが通過したとの意見もあった。また、東別院町、西別院町、旭町、宮前町神前（有志）で取り組まれている地域主体型交通について、自宅（付近）を発着として主に買物や通院への移動を担っており、最寄りのバス停までの移動が困難な住民がいる状況の中で、このような交通手段の確保へのニーズが高いように感じる。デマンド交通の導入は着眼点が少し違うのではないか、地域主体型交通とデマンド交通は競合させるのではなく、自治会等への公的支援を拡大するなど、すでに行われている地域主体型交通の充実を図っていくことが望ましいのではないかとの意見もいただいた。スクールバスへの混乗の拡大についても可能であるか検討いただきたいとの意見もいただいた。また、交通空白地等地域生活交通事業補助金交付要綱を充実しているが、補助対象エリアを広げる意味での「要綱上の不便地の拡大」という文言は不適切ではないかとの意見があり、「要綱上の交通空白地等の拡大」と修正している。初めに申し上げたとおり、後日ホームページでこれらの協議内容を公開するので確認いただければと思う。

＜松山委員＞

それぞれの立場でいろいろな意見が出るのが地域公共交通会議の本意だと思う。現計画の検証やアンケート調査を通して、バス、電車、タクシー、地域主体型交通、デマンド交通等、本市にとってより大きな枠組みの中でどういった形を組み合わせるのが一番よいのか、抜本的な議論をしてもらえるように市が率先してやっていただきたい。

＜大石委員＞

第２回地域公共交通会議の記載の中に現計画の達成状況とある。今は詳細な資料ができていないとのことであるが、バスの利用回数や乗車する頻度の増加を目標にすると言われたと思う。具体的な検討はこれからかもしれないが、各数値を向上させるためにどのように取り組もうとしているのか。それにより既存の公共交通と地域主体型交通やデマンド交通との整合やすみ分けが必要ではないかと思うがどうか。

＜桂川・道路交通課広域事業・交通担当課長＞

現計画の数値目標とその実績を申し上げると、「バス利用者の増加」として、現況値４，０００人／日（２０１６年度実績）に対して、目標値を４，２００人／日に設定していたが、結果は３，４８８人／日（２０２１年度実績）であった。また、「バスの利用頻度の向上」として、「月に数回以上の利用」が現況値２５％（２０１８年市民アンケート調査結果）に対して、目標値を３０％に設定しており、今回のアンケート調査で評価していきたいと考えている。次に、「ふるさとバス・コミュニティバスの収支率の増加」として、現況値２３％（２０１７年度実績）に対して目標値を３０％に設定していたが、結果は２０．４％（２０２２年度実績）であった。

＜大石委員＞

しっかりと施策を打たなければ利用者は増えない。そういう意味でどのようなことにこれから取り組んでいきたいのか。

＜桂川・道路交通課広域事業・交通担当課長＞

今申し上げた数値も踏まえた上で、地域公共交通会議を年間４回開催することとしており、次回３回目を１１月下旬に予定しているので、その会議の中で現計画の達成状況やアンケート調査の結果を踏まえて、新しい計画に盛り込む施策を諮っていきたいと考えている。

＜法貴委員＞

これからいろいろと施策を考えられるということで、アンケート調査がとても重要

になってくると思う。１，５００人の市民をランダムに抽出されるとあったが、どのような地域や年齢層に配るのか。
＜桂川・道路交通課広域事業・交通担当課長＞
無作為による抽出であるため年齢層は指定できないが、地域については固定値を設けた上でそれに人口割を上乗せして、地域の偏りが出ないように配慮している。
＜法貴委員＞
年齢層については交通弱者である高齢者の方の意見が非常に大事であると考えるがどうか。
＜桂川・道路交通課広域事業・交通担当課長＞
地域公共交通会議の中でこのアンケート調査のやり方が統計的に有効であるといただいており、年齢層については特段区切っていない。
＜法貴委員＞
統計的に全年齢層に聞くという根拠もあると思うが、より困っておられる方の意見を聞くべきであると思う。バスに設置するアンケートを含めてしっかりと回収していただきたい。
＜大西委員＞
地域公共交通会議を少し傍聴させていただいたが、アンケート内容の分かりにくいところが誤解のないように修正されていると思う。このアンケートでは、地域割をした上で人口割を加えて１，５００人を抽出するということであり、公平に配ってもらえると思うがどうか。
＜桂川・道路交通課広域事業・交通担当課長＞
抽出された１，５００人に対してアンケート用紙を送付し、その方々から回答いただくものである。
＜大西委員＞
１，５００人に個人名で郵送されて回答いただくものと理解した。バス車内に設置するアンケートはどのようになるのか。
＜桂川・道路交通課広域事業・交通担当課長＞
市内を走るコミュニティバス、ふるさとバス、京阪京都交通バスの全てのバス車両にアンケート用紙を配架する予定である。
＜土岐委員＞
地域公共交通会議の傍聴はどのように対応しているのか。
＜桂川・道路交通課広域事業・交通担当課長＞
地域公共交通会議では傍聴席を４席設けており、傍聴希望者が多数の場合は抽選としている。今後、第３回、第４回と会議があるので、特別委員会の委員の皆さんも傍聴に来ていただければと思う。
＜松山委員＞
バスの利用者と無作為に抽出した市民１，５００人にアンケート調査をされるが、それに加えて、市の公式ＬＩＮＥなどＳＮＳやインターネットを活用して広く意見を聴取してはどうか。
＜桂川・道路交通課広域事業・交通担当課長＞
アンケート用紙の右上にＱＲコードを載せており、それを読み取ることでインターネットでも回答いただけるようにしている。
＜松山委員＞
市の公式ＬＩＮＥ等で誰でもアンケートに回答できるような形を取り入れて、幅広

く市民の方の声を聞いていただけると非常にありがたいがどうか。
＜桂川・道路交通課広域事業・交通担当課長＞
委員がおっしゃった市の公式ＬＩＮＥからアンケート調査の実施を案内して、そこからも回答いただけるようにしていきたい。
＜松山委員＞
ぜひともよろしくお願いする。今回このようにアンケートを取って市民から意見を聞くことはもちろん大切であると思うが、現計画でこれまで積み上げてこられた取組の実績はどうであったのか。また、今回のアンケートの調査結果を踏まえて、今後どのように検証していくのか。アンケート結果と重なる部分もあるが、これまでにできている部分とできていない部分があると思う。次期計画の策定に向けていかに市民の方に納得していただける形が取れるのかを一緒に議論できればと思う。今後どのような形で現計画を検証されていくのか。
＜桂川・道路交通課広域事業・交通担当課長＞
市としても現計画の達成できているところ、達成できていないところを確認しているところであり、あわせて計画策定を委託している事業者にも評価していただいている。それらの結果を踏まえた上で、事務局として次期計画に載せていくべき内容やできたことで終了する内容を決めていければと考えている。
＜松山委員＞
よろしくお願いする。
＜山本副委員長＞
第３回の地域公共交通会議を１１月下旬に開催される予定で、そのときに現計画の達成状況やアンケート結果を検証し、次期計画でどのような施策をしていくのかを決めていくとおっしゃっていたが、時期的なことがこれまでの説明と少し違わないか。
＜桂川・道路交通課広域事業・交通担当課長＞
第３回地域公共交通会議で新計画の素案を提示したいと考えている。アンケート調査やその分析、そして現計画の検証を踏まえながら、９月、１０月で作業を進めていく必要があると考えている。
＜まちづくり推進部長＞
１１月に３回目の地域公共交通会議を予定しているが、そのときにはアンケート結果について報告するとともに、現計画を検証した結果やアンケート結果を踏まえてコンサルとつくった計画の素案を委員に示し、次期計画に載せていく内容を確認していきたいと思っている。
＜山本副委員長＞
１１月下旬の第３回地域公共交通会議で計画の素案が出てきて、そのときに委員に諮って内容をもむということでよいか。
＜まちづくり推進部長＞
計画策定に慣れたコンサルと調整し一旦事務局案として計画の素案をつくらせていただき、第３回地域公共交通会議で各委員の方にお示しするという形であり、会議で出された意見を踏まえて修正を加えて仕上げていくことになる。
＜山本副委員長＞
特別委員会でこれまでに地域に入って調査をしている。新計画の素案ができる前に現計画の実績や検証結果、アンケート調査結果などを報告していただき、それを受けて意見や提言を出していきたいとの思いがあるがどうか。

＜まちづくり推進部長＞
これまでの議会においても、この特別委員会と連携して次期計画をよりよいものにしていきたいと答弁している。次回の地域公共交通会議の前に現計画の検証やアンケート調査の結果等をお示しできればと思う。
＜齊藤委員長＞
特別委員会としても１０月中には地域公共交通会議会長から次期計画の方針や考えなどをお聞きしたいと考えている。その上で、現計画の検証やアンケート調査の結果等を報告いただき、それらを踏まえた中で意見や提言を出していきたいと思っているので、よろしくお願いする。

・地域主体型交通の取組について
［桂川・道路交通課広域事業・交通担当課長　説明］

［質疑］
＜齊藤委員長＞
７月に本委員会で実施した現地調査の結果も踏まえた中で、何か質疑はあるか。
＜大石委員＞
地域主体型交通を推進することは、路線バスに乗らずにバス利用者が減ってしまうといった悪循環を招くなど、既存の公共交通に弊害を及ぼす可能性があると考えている。これをうまく整合させることは非常に難しいと思うが、互いにマイナスとならないようにしっかりと検討いただきたい。共存できることが大事であると思っている。
＜齊藤委員長＞
既存の公共交通が減便されていくことはいかがなものかと思う。このことを含めて見解をお願いしたい。
＜まちづくり推進部長＞
確かに路線バスと競合してバス利用者が減ってしまうことはいけないことである。周辺の地域では最寄りのバス停までが遠い方もいらっしゃるので、現状ではそういった方の利便性を高めるために、地域主体型交通を広げていくことを考えている。バス停が自宅から近い方にはできる限りバスを利用するように自治会から言われているところもあると伺っている。競合して共倒れにならないようにしていきたいと考えている。
＜松山委員＞
神前住民ハイヤープロジェクトについて代表者から直接話を聞いたが、地域の交通弱者の方のために３名のボランティア運転手で何とか運営されている状況であった。ほかの地域主体型交通に関しては自治会中心で運営されているが、それができていない経過も伺っている。本市において地域主体型交通を充実させていくことは必要であると感じており、今後どのような形で支援できるかは分からないが、善意で取り組んでいただいている方に対して、金銭面の支援だけではなく環境づくりも含めて市がサポートしていただければ非常にありがたいと思っている。そのような視点を持ちながらこの取組をしっかりと進めていただきたい。あわせて、既存の公共交通と地域主体型交通が互いに食い合わないように、本市全体の公共交通の維持・拡大と、それが将来にわたって持続可能なものとなるように努めていただくよう、よろしくお願いしたい。

＜法貴委員＞
東・西別院町や旭町は自治体単位で地域主体型交通に取り組まれていたが、宮前町神前では区レベルの有志による取組であった。今後、地域主体型交通に取り組んでいきたい地域が出てくることが考えられるが、地域主体型交通の地域がどのような範囲であるのか、その定義について伺いたい。
＜桂川・道路交通課広域事業・交通担当課長＞
地域について特に縛りは考えていない。例えば、運転手不足が問題になっているのであれば、町をまたいでエリアを広げていくこともあると思う。そういった声が上がって取り組まれようと考える地域があれば、市もしっかりと相談に乗って支援していきたいと考えている。
＜法貴委員＞
山間部の小さな区などが地域主体型交通に取り組みたいと言われれば、対応していただけるとの理解でよいか。
＜桂川・道路交通課広域事業・交通担当課長＞
おっしゃるとおりである。
＜法貴委員＞
神前住民ハイヤープロジェクトは、代表者の方が強い気持ちで取り組まれているが、彼が何かの事情で運営できなくなれば機能しなくなる恐れがあり、このままの形では持続可能は難しいのではないかと思っている。自治会で取り組まれていれば代わりに誰かがサポートできるので、地域によるこのような取組が将来にわたって持続可能なものとなるよう、意見として言わせていただく。
＜齊藤委員長＞
これは地域の中で話し合いができるように、地域に投げかけていただければと思うが、先ほど担当課長からも地域を支援していくとあったので、神前での取組が持続可能な形になるようによろしくお願いしたい。地域主体型交通の取組については、特別委員会で現地調査を行ったことに加えて、本日の執行部からの説明と質疑で現状や課題等が把握できたと思う。執行部におかれては、引き続き、地域公共交通会議の議論を踏まえる中で、次期地域公共交通計画の策定に関して、当委員会へ検討状況や情報共有をよろしくお願いする。最後にまちづくり推進部長からコメントをいただきたい。
＜まちづくり推進部長＞
地域主体型交通をさらに導入できればと考えてはいるが、おっしゃるように既存の公共交通と潰し合いになることが懸念され、行政負担も今後どんどんと増えていってしまうということもある。また、デマンド交通に関する要望も聞くところであるが、市民へのアンケートの取り方にも十分注意しなければならないと地域公共交通会議会長からも意見をいただいている。利用したいとの意見が増えて新たな交通手段を導入することになっても、実際に蓋を開けてみれば利用者が少ないといったことにならないよう、今回はアンケートの内容を一部修正させていただいたが、その他の項目としてそういったこともお伺いできるようなところを設けている。また、地域主体型交通に関して自家用車を借用されている状況が多いので、車両に対する補助制度を見直すなど、地域にとってより利用しやすい制度になっていければと考えているので、今後とも御指導をよろしくお願いする。

［まちづくり推進部　退室］

１５：５９

（２）他市事例について（情報提供）

＜齊藤委員長＞

他市事例についてであるが、産業建設常任委員会でデマンド交通に取り組まれている愛知県江南市に「いこまいＣＡＲ（デマンド交通）の取組について」の行政視察に行かせていただいた。こちらは高齢者に行き届いた公共交通の提供という先進事例であったが、江南市自体が平野部を中心としたコンパクトシティであり、中山間部が多くある亀岡市と状況が違うこと、また、タクシー事業者が充実している中での取組であった。そういったことで、資料にあるとおり非常に環境が整った羨ましい取組であった。

＜法貴委員＞

私も産業建設常任委員として視察に行かせていただいた。今委員長からあったようにここはかなりのコンパクトシティであり、本市と比べて人口は少し多いが面積は１／７ぐらいで、市内に河川が一つもなく、本当に市街地だけでできている自治体であった。ここでは高齢者の足として先進的に取り組まれているデマンドタクシーへのニーズが右肩上がりに増えており、今やなくてはならない公共交通となっていた。市内にタクシー事業者が４社もあり、運転者の高齢化が課題のようであるが、車両は十分充足しているとのことであった。本市でもこのような取組ができればよいとは思うが、環境が大きく違っていると率直に感じた。

＜齊藤委員長＞

続いて、経政会による沖縄県那覇市への「福祉バスふくちゃん号について」の視察であるが、先ほどの江南市と似たような市街地を中心とした市域の環境であった。ここでは６０歳以上の方や障がい者への配慮として、市内の病院や福祉施設等を中心に無料で巡回しており、多彩な４コースが設定されていた。もともとの発端は民間事業者が那覇市にバス２台を提供したことにより、行政からすれば車両購入の投資がなく事業を始められたとのことであった。ただしバス車両の買換えも含めて運行を維持するため財政的に大変であるとおっしゃっていた。本市においても税収や継続的な財政支出のことを考えれば何がよいのかと課題に感じたところである。これら２市の取組について情報提供するので、先進事例として参考にしていただきたいと思う。

１６：０５

（３）今後の委員会調査について

＜齊藤委員長＞

今後の委員会調査について、何か意見はあるか。

＜松山委員＞

現計画が策定されてどれほどの課題が改善できたのか見えてこない。地域公共交通会議において、それぞれの委員があまり発言されていないのではないかと思っている。それぞれの会社の利益や立場がある中で、できることできないことが出てくる部分があるとは思うが、本来、このまちの公共交通をこの先どのような方向に進めていくのかをしっかりと議論できるような場がこの会議であると思う。そこが今一つ機能しきれていないのではないか。そのような方向性をしっかりと念頭に置いて計画策定の作業を進めていただいていると思うが、事務局にはより一層のイニシア

チブを取っていただき、民間との話し合いの中で真に交通弱者をはじめとする市民のよりよい移動確保のために何をすべきであるのかを見出していければと思う。その上で地域公共交通会議会長から意見を聴取するほうが理にかなっているのではないか。

＜齊藤委員長＞

私も第１回地域公共交通会議を傍聴したが、松山委員がおっしゃるとおり、事務局が内容を説明した後、委員から何も意見が出ずに会長が締められていた。民間事業者も委員となって車座で話し合おうということであるが、なかなかそれぞれの立場から意見が言い出せない状況がある中で、だからこそ民間事業者の思いも含めて学識経験者である地域公共交通会議会長から直接話を聞いて議論することがよいのではないかと思っている。特別委員会委員の皆さんからしっかりと声を出して会長と議論を交わしていただき、その結果を今後の提言に盛り込んで新計画策定の後押しができるようにしたいと思っている。

＜松山委員＞

今委員長からお話いただいたように、この委員会に地域公共交通会議会長をお招きいただき、本市の公共交通に関する考えを聞かせていただいた上で議論していくことは非常に大事であると思うので、ぜひともお願いしたい。

＜齊藤委員長＞

しっかりと市民を見て議論していきたいと思っているので、よろしくお願いする。今後の委員会調査として、本委員会に地域公共交通会議会長を参考人として招致して、次期地域公共交通計画策定に関する意見を聞くこととしたいがよいか。

―全員了―

１６：１１

３　その他

＜齊藤委員長＞

今後のスケジュールを考慮する中で、地域公共交通会議における次期計画の検討状況を確認すること、現計画の検証や総括について確認すること、学識経験者として地域公共交通会議会長から意見や課題を伺うこと、そして、１１月の提言を目指して委員会でしっかりと議論していきたいと思っている。既存交通の維持や充実、地域主体型交通の拡充、また、デマンド交通の検討、スクールバスの混乗や活用等、持続可能で地域に効果的な施策を総がかりで見ていくことが大事であると思っている。そのような方向で検討し提言に盛り込んでいければと思っているがどうか。

―全員了―

＜齊藤委員長＞

オール亀岡で交通難民を助けていき、交通利便性のよいまちづくりを進めていきたいと思っているので、よろしくお願いする。そのようなことで事務局はどうか。

＜事務局副課長兼議事調査係長＞

本日検討いただいた内容を踏まえて、１０月下旬を目途に地域公共交通会議会長から御意見をいただくこと、また、執行部から現計画の検証や総括を報告いただけるとの話もあった。そのような中でしっかりと委員会の意見をまとめていただければと思っている。

＜齊藤委員長＞

一つ執行部に伝え忘れていたが、アンケート調査について人口割を取り入れて実施

するとおっしゃっていた。しかしながら人口の多い市街地ではあまり交通に対する不便はないと思う。そうではなく山間部をはじめとする周辺地域が日常の移動手段に困っておられることから、地域公共交通をどうするのかと検討するのであれば、そういった交通弱者の意見をしっかりと聞くべきであると思うがどうか。

＜松山委員＞

そのとおりであると思う。ぜひともそういった形でアンケートがより困っておられる方を救えるようなものにするべきである。

＜法貴委員＞

私も先ほど言ったが、年齢と地域性が重要であると思う。困っている地域から意見を取らなければアンケートの意味がない。今回の抽出方法が統計的に有効であると言われていたが、実際に困っている人の声をしっかりと聞いて、それをくみ上げて施策に生かしてほしい。

＜齊藤委員長＞

アンケート調査は９月に発送される予定であり、今の段階では抽出方向を変えることはできない。

＜大石委員＞

それであれば、交通に困っている方から声をいただく方法を充実していただくように、委員会から執行部に申し入れてはどうか。

＜齊藤委員長＞

今日の検討結果として、正・副委員長から執行部にそのようなことを伝えたいと思うがどうか。

＜事務局副課長兼議事調査係長＞

先ほど委員長がおっしゃったとおり、均等割と人口割を採用し無作為に１，５００人を抽出する手法は変更できないものであるが、周辺地域の声を聞くことの充実については対応できればと思う。この後執行部と調整させていただくので、そういったことを踏まえて正・副委員長に一任いただければどうか。

＜齊藤委員長＞

周辺地域の声をしっかりと拾っていただくために、例えば自治会にアンケートを置いて周知いただくことを執行部にお願いしてはどうか。

―全員了―

＜齊藤委員長＞

そのように正・副委員長で執行部と調整させていただく。特別委員会としてしっかりとした方向性が出てきており、大変意義ある会議であったと思う。引き続きよろしくお願いする。

散会　１６：２０